

7 昭和21年頃に砂丘林(アダン)が無かった事の歴史的な背景について



1946年（昭和21年）4月19日の嘉徳海岸の状況

昭和21年頃に砂丘林(アダン)が無かった事の歴史的な背景について

●嘉徳集落出身者より聞き取った結果

- ・昭和初期までは人家があったが、その後は畑として利用していた。

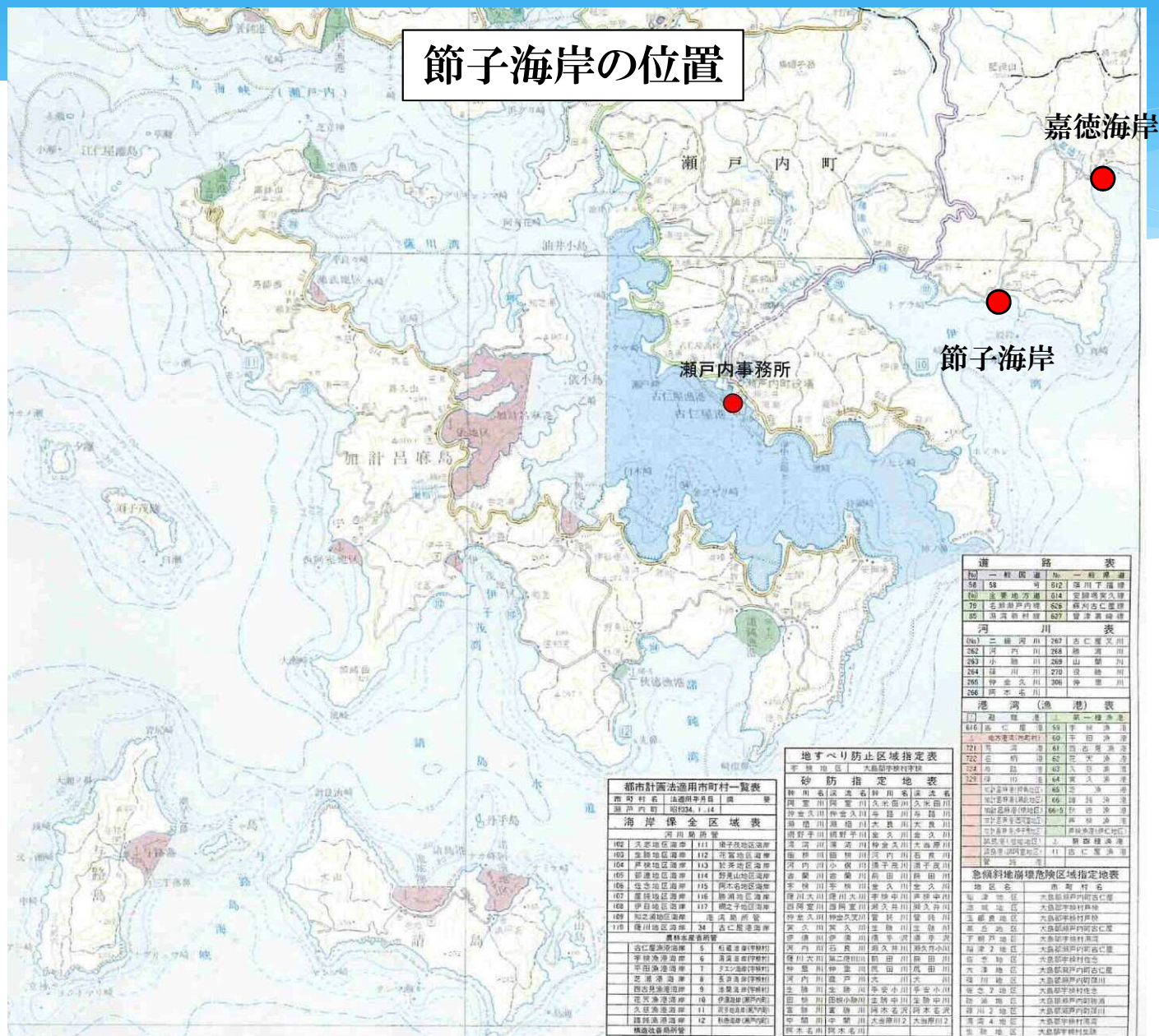
現在も利用している土地を除き耕作放棄地となり、砂丘林が発達していったと考えられる。

- ・昔から侵食は起こっていたが、今回のような状況は初めてであった。

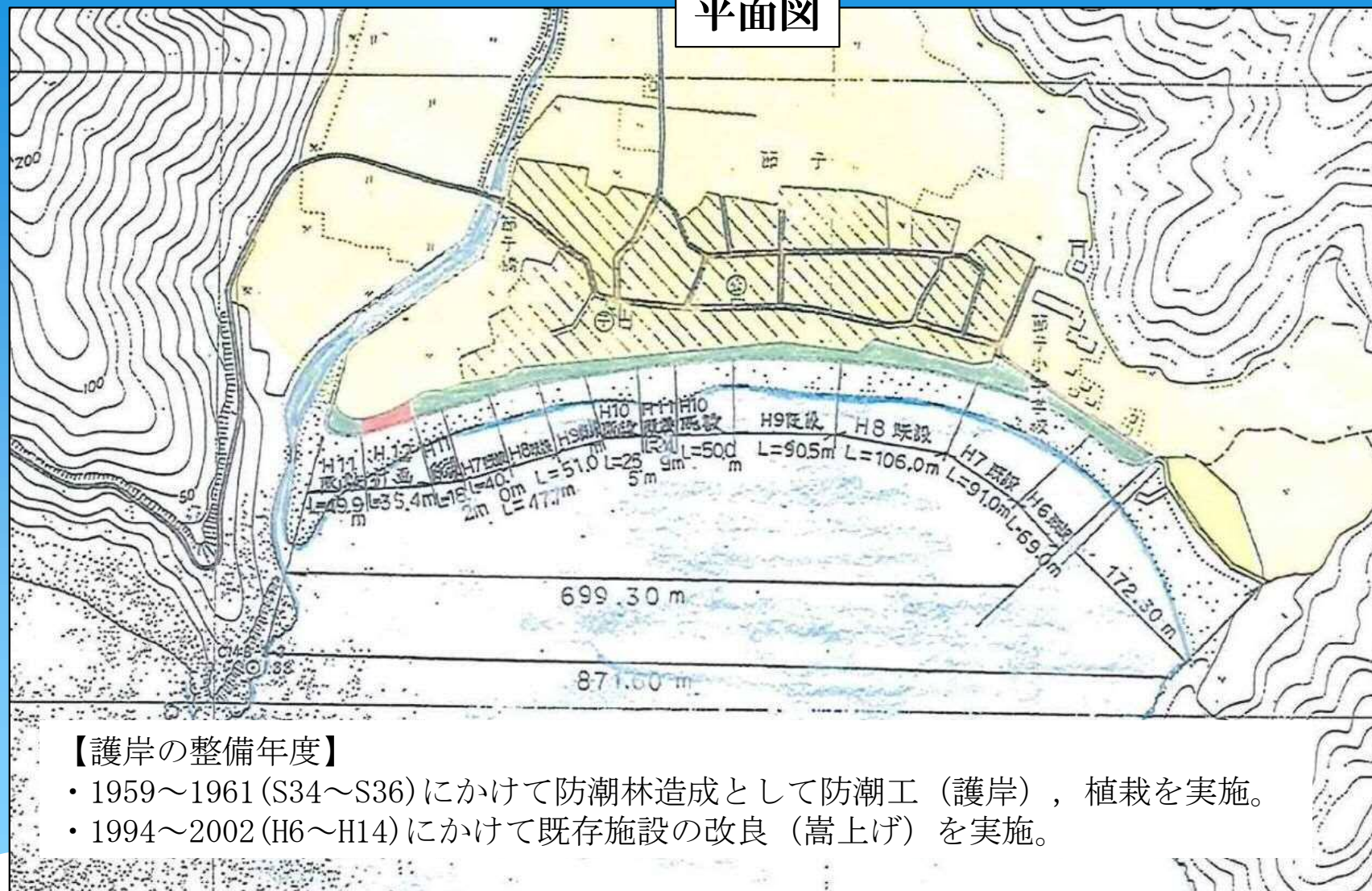
- ・嘉徳川の河口が閉塞したら、集落民で開削作業を行っていた



8 節子海岸の現況について



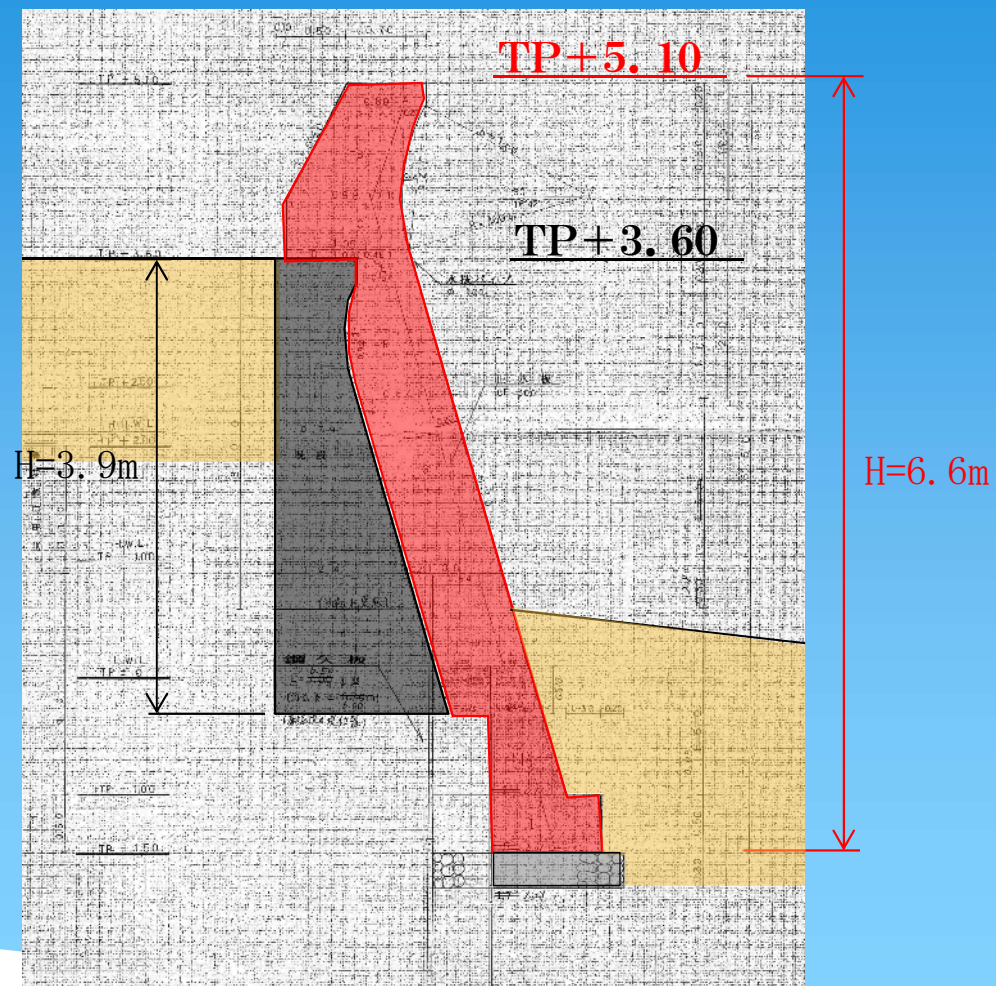
平面図



【護岸の整備年度】

- 1959～1961 (S34～S36) にかけて防潮林造成として防潮工（護岸），植栽を実施。
- 1994～2002 (H6～H14) にかけて既存施設の改良（嵩上げ）を実施。

標準断面図



事業実施時の状況



1996 (H8)

現在の状況



2017 (H29) . 9. 29

事業実施時に浜にあった礫は無く、砂浜になっている。

事業実施時の状況



1998 (H10)

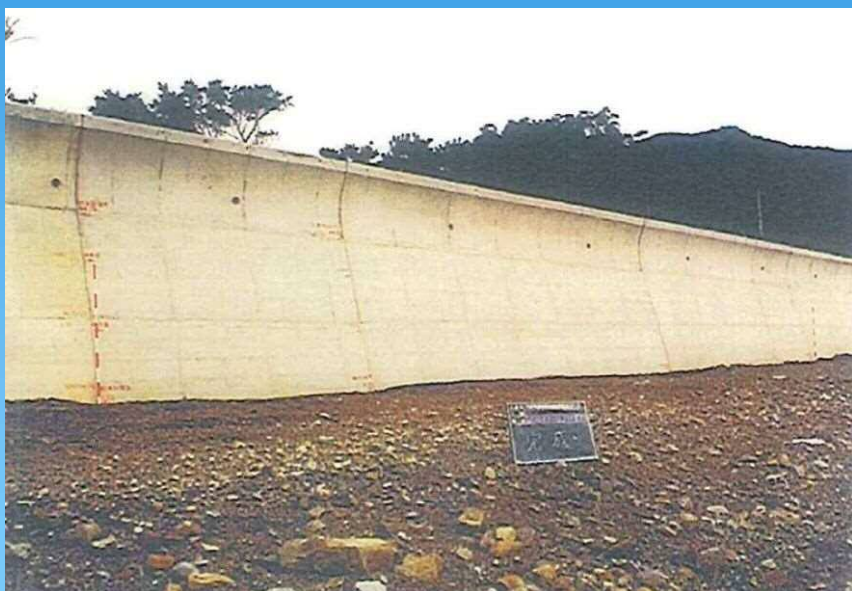
現在の状況



2017 (H29). 9. 29

斜路の露出している範囲が減少している。
護岸背後の植生が繁茂している。

事業実施時の状況



1999 (H11)

現在の状況



2017 (H29) . 9. 29

事業実施時に浜にあった礫は無く、砂浜になっている。
護岸の前面が船だまりになっている付近については砂浜が消失していた。

現在の状況



節子地区の航空写真

節子地区

海岸には護岸が無く天然の海岸線が広がっている。

1946年（昭和21年）4月19日の節子海岸の状況

節子地区の航空写真

節子地区

1959年～1961年にかけて護岸が整備された。
1946年と砂浜の状況に大きな変化は見られない。

1965年（昭和40年）12月21日の節子海岸の状況

節子地区の航空写真



1994年から既存施設の改良を実施中。
集落の東側に船だまりが整備され、航路が出来ている。
船だまり付近の砂浜の減少が見られる。

1995年（平成7年）11月5日の節子海岸の状況

節子地区の航空写真



砂浜が減少した範囲は1995年当時と大きな変化は見られない。

2008年（平成20年）11月26日の節子海岸の状況

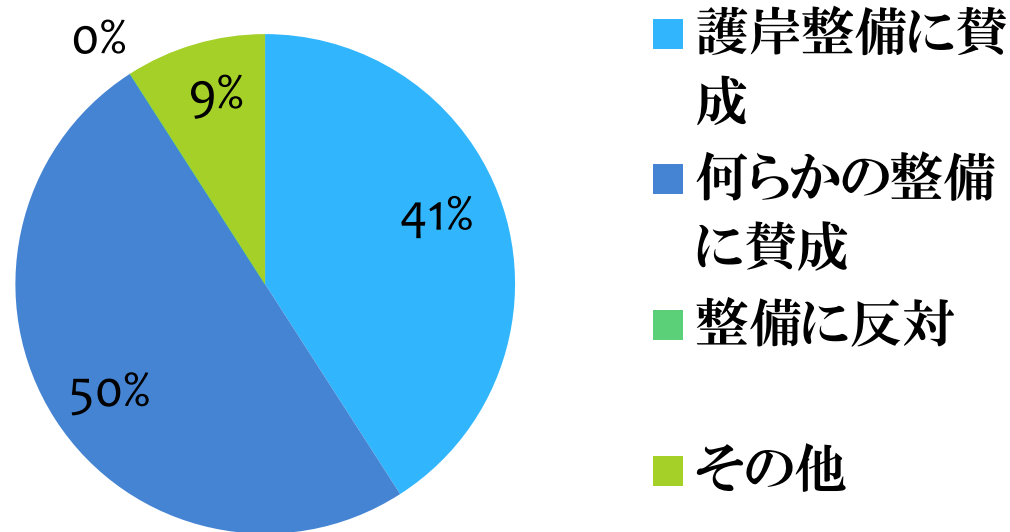
9 嘉徳地区住民からの海岸保全に関する聞き取りについて

聞き取り期間：平成29年6月29日～7月13日

聞き取り方法：瀬戸内事務所及び瀬戸内町役場が個別に聞き取り

対象人数：15世帯22名

嘉徳海岸の海岸保全について



護岸整備に賛成

- ・人命，財産がかかっている話であり護岸は必要である。
- ・このままだと侵食が進み集落が無くなるのでは。
- ・集落に住んでいる人の意見が大事。

何らかの整備に賛成

- ・自然も大事だが，住んでいる者としては何らかの対策をしてもらいたい。
- ・墓を守る事が一番大事。
- ・最小限必要な箇所を整備し，様子を見ては。

その他

- ・正直なところ必要なのか分からない。

前ページまでに使用している航空写真データは以下のサイトから引用しています。

- 航空写真出典元：国土地理院ウェブサイト

<http://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1>

- 「航空写真データ」(国土地理院)をもとに鹿児島県大島支庁瀬戸内事務所作成

第１回嘉徳海岸侵食対策事業検討委員会に対する意見書について

- ・自然との調和も大事だと思うが、住民の人命や財産を守るのが最優先であり、早急に工法を特定し事業を進めてほしい。
- ・沖砂の採取と川の流れを変えることをしなければ、砂浜は元通りになり、護岸工事は必要ない。
- ・遠方に住む者にとって、非常時の対応が出来ないため、台風に怯えることなく安心して過ごせるよう、早急な護岸工事を願っている。
- ・護岸ができれば今の景色、環境、人の心は奪われる。護岸工事には反対する。
- ・網野子海岸の砂浜侵食は、沿岸構造物や防波堤の建設により沿岸漂砂の連続性が失われたことによるものが大きいと考えられる。その侵食の原因を検証したうえで、嘉徳海岸の侵食対策を考えてみてはどうか。早急な工事はご一考いただき、嘉徳海岸においては、その希有な環境をなるべく現状のまま後世まで残し、地域の観光・環境資源として持続的に有効利用していくことを求める。
- ・国内に残存する貴重な自然の砂浜なので、自然や景観を最大限保全していただきたい。本来あるべき海岸の姿を詰めた上で、自然地形も考慮したグリーン・インフラの観点から海岸計画をお願いしたい。自然石の活用やコンクリート構造物の表面への盛土や植生など、景観等に十分留意した工法をとってほしい。
- ・お墓の前だけに自然に配慮した対策を行ってほしい。自然の砂浜は残し、持続可能な侵食対策事業の検討をお願いします。
- ・嘉徳は山、川、海が揃い、自然を楽しむためには最も可能性がある場所で、アドベンチャートラベルの可能性を生かすことが未来ある道。日本の中でも貴重な嘉徳の自然を保護する対策をお願いします。
- ・嘉徳海岸は生物多様性が豊かであり、全貌を解明するには更なる科学的調査が必要。将来にわたる海の管理を進めるうえで、地域住民の参加、説明会の開催等を通じた合意形成が必要。ECO-DRR(生態系を生かした防災)などの先進的な取り組みを行い、財産である自然海岸を大切にすることを強く要望する。
- ・皆様方が心配して下さるほどの切羽詰まった驚異は感じていない。国立公園、世界自然遺産と呼ぶにふさわしい海岸として国内外から訪れていただくためにも、昔あった大規模な砂丘やもっと沖まで続いていた海岸、アダンや他の樹木の防風林を復活させる再生プロジェクトを本気になって考えてみるのはいかがか。
- ・最も被害が顕著な墓地周辺は、早急に対策がなされるべきであるが、土のうをさらに補填し、植栽等を施することにより、現在の土のうを補強することは可能ではないか。
- ・海岸土木工学研究及びその技術の未来のためにも、嘉徳海岸の天然性を今のまま保存してほしい。台風のたびに遺骨を避難させているのであれば、集落の墓地を移設し、先祖供養の祭事を集落行事として毎年行うことで、奄美大島の宗祖を後生に伝えるという文化的側面を発信することも可能。